

セグロウリミバエハンドブック
【こども版】

セグロウリミバエを やっつけろ！



おきなわけんびょうがいちゅうぼうじょぎじゅつ

沖縄県病害虫防除技術センター

ねん がつぼん

2026年4月版

はじめに

セグロウリミバエという虫が、令和6年(西暦2024年)3月に沖縄本島北部のトラップ(わな)に捕まり、沖縄に侵入してきたことがわかりました。この虫は、外国でウリ科などの野菜に大きな被害を与える大害虫です。

そのため沖縄県では、国や県や市町村、JAなどの農業団体など、みんなで力を合わせて、セグロウリミバエの根絶(完全にいなくなる事)を目指しています。

でも、根絶を成功させるには、沖縄県民みんなの協力が、絶対に必要です。

このハンドブックで勉強して、セグロウリミバエの対策を少しでも、みんなで考え、実践していってくれるとうれしく思います。

沖縄県病害虫防除技術センター

セグロウリミバエ最新情報はこちらのサイト



沖縄県HP

・セグロウリミバエのまん延防止対策



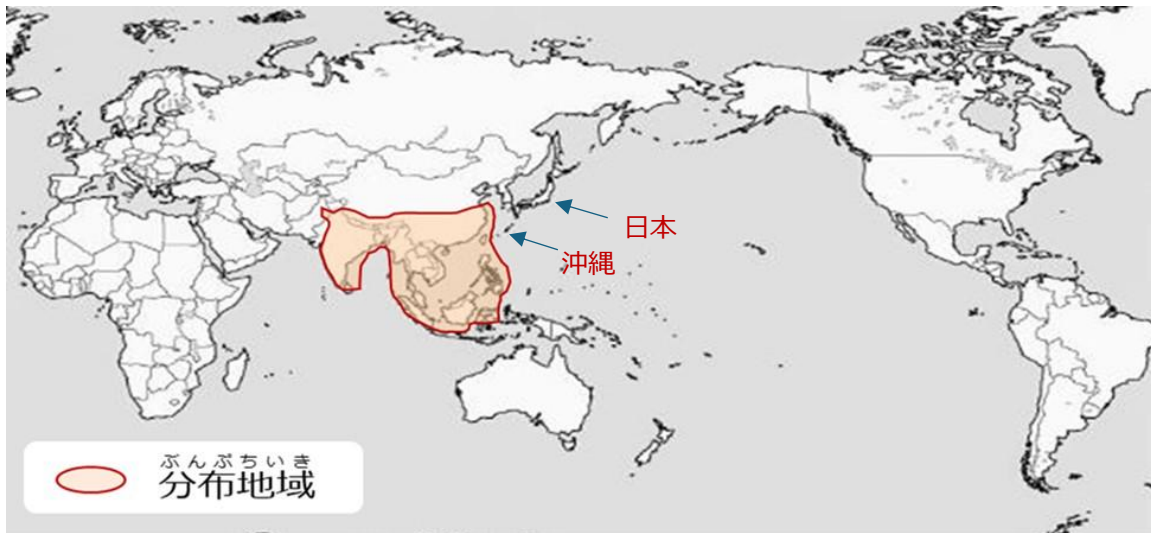
沖縄県病害虫防除技術センターHP

・セグロウリミバエの防除対策
・トラップ誘殺状況および寄生果確認状況

1 セグロウリミバエってどんな虫？^{むし}

(1) 種類と分布^{しゅるい ぶんぷ}

セグロウリミバエはミバエ^{みばえ}の仲間^{なかま}です。「セグロウリミバエ」という和名^{わめい にほん}（日本での名前^{なまえ}）は、背中^{せなか}が黒っぽくて、ウリの実^みを主に^{おも}に食^たべることから来^きています。



セグロウリミバエの分布

このハエは中国^{ちゅうごく}やインド^{とうなん}や東南アジア^{ひろ ぶんぷ}に広く分布^{ぶんぷ}していて、みんなもよく知^しっているゴーヤー^{か やさい}やカボチャ^{だいす}、ヘチマ^{たまご}、トウガン^うなど、ウリ科^かの野菜^{やさい}が大好き^{だいす}です。卵^{たまご}を産^うみつけられた実^みは、幼虫^{ようちゅう}が中身^{なかみ}を食^くい荒^あらすせいで腐^{くさ}ってしまうので、食^たべたり売^うったりできなくな^なってしまいます。

(2) なぜ、やっつける必要があるのでしょうか？

セグロウリミバエはもともと日本にはいない虫でした。ただ、東南アジア地域では野菜の大害虫だったことから、日本に入ってきたように特に注意していた虫のひとつだったのです。

ところが、2024年3月に沖縄本島北部で1匹のオス成虫がトラップ（わな）に捕まって、5月の調査では幼虫が寄生した果実も見つかりました。このことで、沖縄本島にセグロウリミバエが入り込み、さらに発生までしていることが判ったのです。2025年10月現在では沖縄本島の南部や周辺離島にも確認されています。

野菜や果樹などの農産物に大きな被害をもたらす可能性があり、日本にはいけない虫であることから、根絶する必要があるのです。

写真：セグロウリミバエが寄生する主な作物



(3) セグロウリミバエの一生 いっしょう

- ・ゴーヤーやヘチマなど、ウリ科植物の果実に数個～数十個の卵を産みます。卵はたった1～2日で、ふ化します。
 - ・幼虫(ウジ)は、実の内部を食べながら、大きくなると果実から脱出し、土の中などで蛹になります。ふ化してから、夏なら6日間くらい、冬なら11日間くらいで蛹になります。
 - ・蛹は夏で8日間くらい、冬では9日間くらいで羽化して、成虫
- ※全て沖縄本島の気温から算出しています



図 セグロウリミバエの生活史

【はついくおんど 発育温度】

- ・ミバエ類などの昆虫は、ある温度よりも寒くなると、まったく成長できなくなります。それを発育零点と言います。セグロウリミバエの発育零点は6.7～9.3℃くらいです。逆に、いちばん生育が良くて、どんどん増える温度は25～28℃くらいです。

(2) かたち・特徴 とくちょう

【卵】 たまご

卵は白くて細長く、長さ
ミリメートル
1.3mmくらいと、とても
小さいです。数個から
数十個、まとめて産み付け
られます。



ヘチマの実に産み付けられた卵 み う つ たまご

【幼虫】 ようちゅう

幼虫は最初は目に見えないくらい小さいのですが、最後には7.5
~9.0mmくらいの大きさ
になります。幼虫は大き
くなると果実から飛び
出し、ピョンピョンと跳
ねながら土の中にもぐ
って蛹になります。



卵からかえった
ばかりの幼虫 たまご ようちゅう



蛹になる前の幼虫 さなぎ まえ ようちゅう

【蛹】 さなぎ

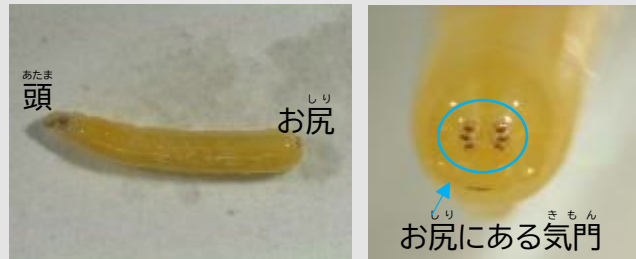
長さは6mmくらいで、米粒
くらいの大きさ。米俵のよう
な形をしていて、色は茶色で
す。



■ ミバエ類の幼虫および蛹の特徴

・沖縄県にはたくさんのミバエ類が住んでいて、ほとんどは害虫じゃない普通の虫です。

・他のハエと見分けるには、幼虫や蛹が呼吸をする「気門」という穴を見てみましょう。人間で言う鼻の穴みたいなものですが、ミバエ類ではお尻にも気門があって、6個あるのが特徴です。



<ミバエ類の幼虫>



<ミバエ類の蛹>

【成虫】

体長は8~9mm。体の色は黒と橙色（オレンジ色）、背中は黒っぽくて、黄色の縦線が3本あります。

メスにはお尻の先に、とがった産卵管（卵を産む管）があるので、すぐに判ります。



メスの成虫



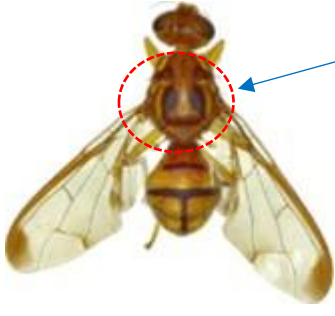

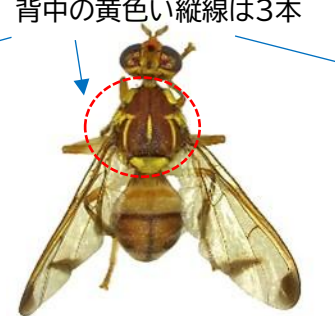

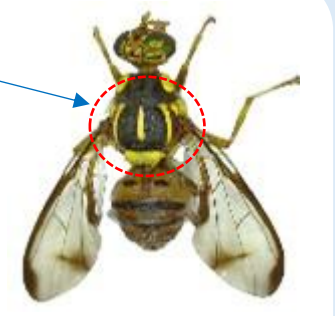

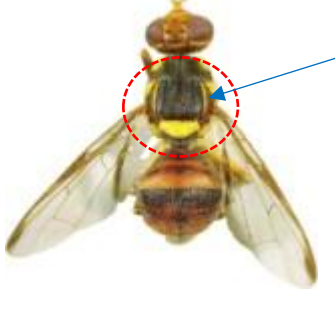



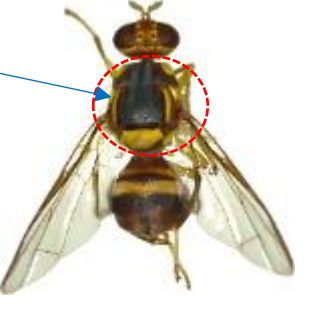

オスの成虫

■セグロウリミバエを見分けてみよう！

沖縄にはたくさんのミバエの仲間が住んでいます。ウリミバエのよう大量に飼育した不妊虫※¹を放しているものもあります。

セグロウリミバエを見分けるには、まず背中の黄色い縦線を見てみましょう。セグロウリミバエなどの背中にある縦線は3本ですが、ナスミバエなどは2本です。次に翅の模様を見てみましょう。ウリミバエなどの翅には黒くて細長い三角形の模様がありますが、セグロウリミバエなどの翅には同じ場所に模様がありません。

※¹ 不妊虫については12～13ページで説明

  <p>黒い三角形なし セグロウリミバエ</p>	<p>背中の黄色い縦線は3本</p>   <p>黒い三角形あり ウリミバエ (不妊虫)</p>	  <p>黒い三角形あり ミスジミバエ</p>
  <p>黒い三角形なし ナスミバエ</p>	<p>背中の黄色い縦線は2本</p>   <p>黒い三角形なし フクギミバエ</p>	  <p>黒い三角形なし ミカンコミバエ</p>

(3) 沖縄では何に寄生するのでしょうか？

・沖縄ではおもに、ニガウリ（ゴーヤー）、ヘチマ、未熟なカボチャやトウガンなどのウリ科の野菜を中心に寄生しているようです。まれに、野生のウリ科であるケカラスウリやオオカラスウリから見つかることもあります。

【県内で寄生が確認された植物】 ※●は特に重要な寄主植物

1) 栽培植物

(2026年4月27日現在)



●かぼちゃ



●へちま



●にがうり



●とうがん



●赤毛瓜(モーウイ)



●ズッキーニ



●きゅうり



●すいか



●ゆうがお



●まくわうり



●メロン



●パパイア



●トマト(ミニトマト)



●さやいんげん

2) 野生植物



●ケカラスウリ



●観賞用ゴーヤー(にがうり)



●オオカラスウリ



●アメリカスズメウリ



●オキナワスズメウリ

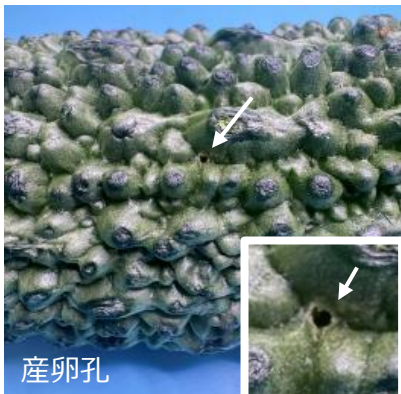
2 ひがい とくちょう 被害の特徴

- ・セグロウリミバエが好きなのは、主にカボチャ、ゴーヤー、ヘチマなどのウリ科の野菜です。
- ・幼虫に内部を食い荒らされた果実は、水がしみこんだような感じになって、最後には腐ってしまいます。

【カボチャの被害】



【ニガウリ (ゴーヤー) の被害】



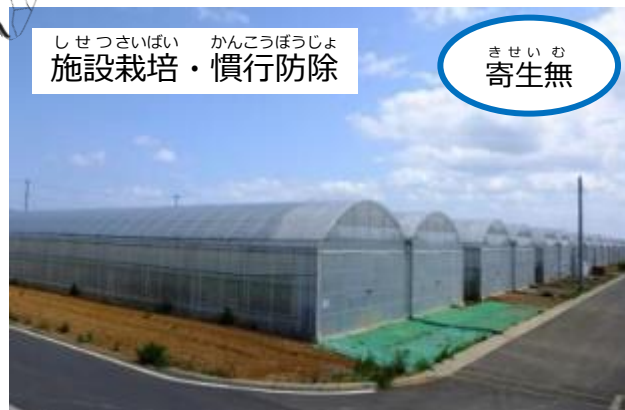
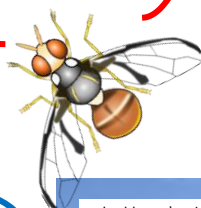
【ヘチマの被害】



3 防除 (害虫の被害が出ないように防ぐこと)

(1) 発生しやすい場所

セグロウリミバエは家庭菜園から多く見つかっています。
特に、食べずに畑に放置された果実から見つかることが多いです。
農家などで販売用に栽培している作物は、害虫を防ぐために、ビニールハウスで栽培したり、農薬を使ったりと、色々な対策を取っているため、セグロウリミバエはあまり見つかっていません。



(2) 国や県や市町村でやっている対策

セグロウリミバエの広がりを防ぐのには色々な方法があります。ここでは、国・県・市町村などの公的機関が力を合わせてやっている方法を紹介します。

① トラップや誘殺板を増やす

沖縄県ではもともと30年以上前から、ウリミバエやミカンコミバエなどの害虫が外国から入ってきててもすぐにわかるよう、虫を誘い込むトラップ（わな）を500か所以上に設置していました。だから外国からセグロウリミバエが入ってきたときも、すぐに発見できたのです。今はトラップを2倍以上に増やして対応しています。

また、外国から害虫が入ってきてても、すぐにやっつけてしまえるよう、誘殺板という小さな板もたくさん設置されています。



トラップも誘殺板も、よく街路樹などにぶら下がっているの
で、みんなも見たことがあるのではないのでしょうか。

トラップや誘殺板には触らないようにしてくださいね。

② 果実調査を行う

トラップの中に害虫が見つかったら、その周辺の果実で虫が増え始めていないかを調べます。家庭菜園や農家の畑から、できるだけたくさんの果実を集めてきて、2週間くらい観察し、その中に幼虫が入っていないか探すのです。

③ 寄生されている植物を除去する

果実調査で幼虫の入った果実を見つけたら、その周辺にも広がってしまっている可能性があるので、できるだけたくさんの果実を集めて除去（取り除くこと）します。畑の持ち主にお願いして、根っこから抜き取って処分したりするから、けっこう大変な作業なのです。



④ 寄生果が見つかった場所の周辺に殺虫剤をまく

果実から幼虫が見つかったら、周辺には成虫がいる可能性が高いので、畑の周りの草むらに、ベイト剤と呼ばれる殺虫剤をまきます。ベイトというのは「引き寄せるためのエサ」という意味で、おいしいエサだと勘違いした成虫がこれを舐めて死んでしまいます。虫は死ぬけど、人間やペットには安全性の高い成分を使っています。

⑤ 不妊虫を放す

交尾しても子供ができない不妊オスを大量にばらまくことで、セグロウリミバエが子孫を残せないようにするという方法もあります。この方法を不妊虫放飼法といいます。

沖縄県では、30年以上も前の平成5年（西暦1993年）に、この方法で、セグロウリミバエの仲間であるウリミバエの根絶に成功しています。これは当時、世界でも稀な快挙でした。

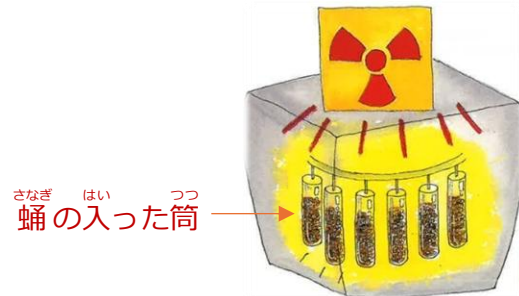
そのしくみは、次の図のとおりです。

ず ふ にんちゅうほう し ほう がいちゅう
図：不妊虫放飼法で害虫をやっつけるしくみ

① ^{じんこう えさ}ミバエを人口の餌で
^{たいりょう ぞうしょく}大量に増殖します。



② ^{सानגי ほうしやせん あ}ミバエの蛹に放射線を当て、
^{ふにんか}不妊化します。



③ ^{さまざま ほうほう}ヘリコプターなど様々な方法で
^{やがい たいりょう ふにんちゅう はな}野外に大量の不妊虫を放ちます。
 (放飼)



④ ^{たいりょう ふにん やせい}大量の不妊オスが野生のメスと
^{こうび やせい}交尾するため、野生のオスが
^{こうび}メスと交尾できなくなります。



⑤ ^{たまご う}メスが卵を産もうとしても
^{たまご ふか}卵が孵化しないため、
^{かず へ}数がどんどん減って行って
^{こんぜつ いた}根絶に至り
 ます。



(3) 農家や家庭菜園でできる対策

農家や家庭でもできる対策も、たくさんあります。

① 侵入させない

農家のビニールハウスは、もともと、害虫が入ってこないよう細かいネット(網)でおおわれているので、ミバエも侵入しにくくなっています。出入口にもカーテンのようにネットをつり下げると、もっと侵入しにくくなります。



ファスナー付きカーテン

ネットの中央にファスナーを付けて、ぴったりと閉められるようにする。



二重カーテン

人が出入りするときに虫が入らないよう、入口の前をネットで覆い、和服のすそのように重ねる。

露地栽培では、果実を専用の袋や新聞紙などで包むと、虫がつきにくくなります。



パッションフルーツの例 (果実を紙袋で包む)

② 野生の寄主植物を取り除く

野生のウリ科植物をできるだけ取り除く
ことも大切です。

特にケカラスウリは要注意です。



5 おわりに

(1) 皆さんへのお願い

これまでお話したように、セグロウリミバエがいると、農家の皆さんも、家庭菜園でも、沖縄で安心してゴーヤーやヘチマなどのウリ科植物を栽培することができません。だから、この虫を根絶する（1匹残らずいなくする）ため色々な対策が取られてきました。

そのなかでも、もっとも効果的な方法だと考えられる不妊虫放飼が始まったのですが、これで大丈夫というわけではありません。

できるだけ早くセグロウリミバエを退治するため、家庭菜園でのウリ科野菜の栽培を自粛（ガマン）したり、いらぬ果実を片づけたりと、沖縄県全体で取り組むことが大切なのです。もしもおうちに家庭菜園があったら、お父さんやお母さんにもお話してみてくださいね。

実は、セグロウリミバエについても、まだまだ判らないところが、たくさんあります。例えば、普段はどこに隠れているんだろうとか、もっとたくさん虫を集められる誘引物質はないかとか。そのために一生懸命研究をしている人たちもいます。

将来その問題を解決するのは、もしかしたら、これを読んでいる君たちかもしれません。だから今までよりちょっとだけ、虫に興味を持って観察してみてくださいね。